

裾野市富士山火山防災マップ

富士山火山防災マップ 作成の目的

- 富士山火山防災対策協議会では、最新の富士山の学術調査等の科学的知見と火山専門家等の助言も踏まえ、火山防災対策を進めるため、令和3年3月に17年ぶりの富士山ハザードマップを改定しました。
- 改訂版では、対象とする噴火年代を2,400年通り、最新の調査結果に基づき噴火口範囲を拡大し、大規模噴火の溶岩の噴出量を約2倍に増やしました。また、大規模・中規模・小規模の3段階に分け、252箇所のシミュレーションを行う大規模・溶岩流の落下範囲を拡大し、市域各地への到達の到達時間が早くなりました。
- このように、今回のハザードマップ改定により、火山現象の及ぼす影響が大きく変化しましたので、特に「避難しなくてはならない人が安全に確保されるための新たな避難経路」を考案する必要があり、現在、富士山火山防災対策協議会で検討された後、逐次具体化する予定です。

そして、この改定を受けて、「裾野市富士山火山防災マップ」を作成しましたが、表面の「災害の発生可能性マップ」は、各種火山現象が及ぼす影響範囲を現実に示した領域図です。また、裏面の「溶岩流のシミュレーション(溶岩流ドリルマップの重ね合わせ図)」は、個々の噴火口から流出した場合、どこまで到達するかを具体的に示した図であり、小規模・中規模・大規模の噴火規模に合わせた領域図です。

しかし、各火山現象は同時に発生するものではなく、一度の噴火で色塗られた範囲すべてに危険が生じるわけではありません。また、この火山防災マップは過去の富士山噴火の調査やシミュレーションをもとに作成しているため、実際に噴火した場合にマップの範囲外に影響が及ぶ等、内容が異なる場合があります。また、注意が必要です。

富士山では様々な噴火履歴を踏まえ、噴火予測のための観測が行われており、現時点(令和4年3月)においては、富士山が噴火する可能性はありますが、一方で噴火しなかったり、噴火した時に噴火が計画しておき必要があります。

そのため、この防災マップは、想定される火山活動によって、どの範囲までどのような影響が及ぶかを市民の皆さんに知っていただくとともに、皆さん一人一人が生活する地域・場所の特性を踏まえ、自らの安全を確保するためにはどう対応すればよいのかを認識し、この火山防災マップに必要な事項を書き込む等、有効に活用していただく目的で作成しました。

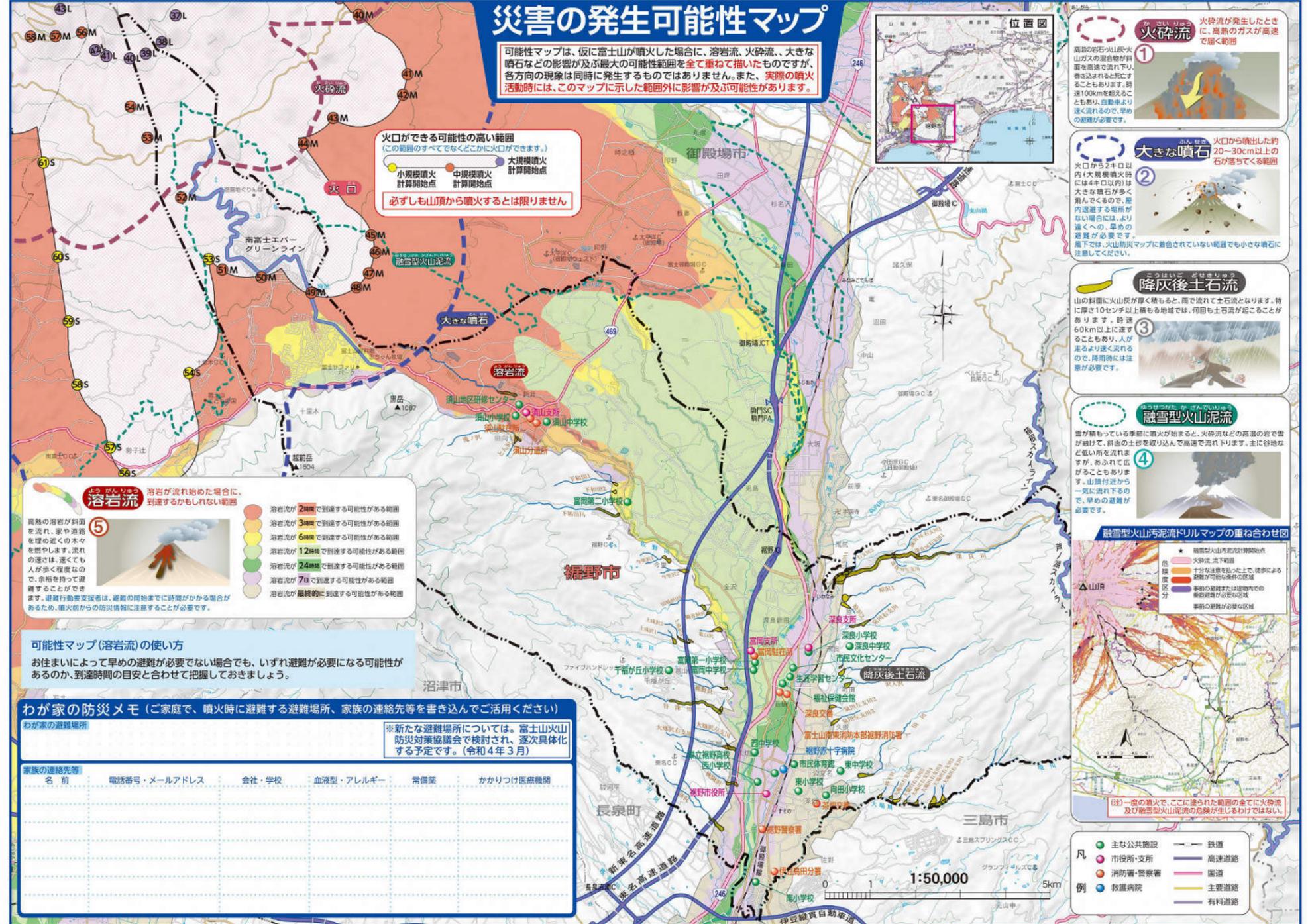


富士山の噴火で生じる可能性の高い現象

すべての現象が発生するとは限りません。

災害の発生可能性マップ

可能性マップは、仮に富士山が噴火した場合に、溶岩流、火砕流、大きな噴石などの影響が及ぶ最大の可能性範囲を全て重ねて描いたものですが、各方向の現象は同時に発生するものではありません。また、実際の噴火活動時には、このマップに示した範囲外に影響が及ぶ可能性があります。



降灰の可能性マップ

細かく砕けたマグマが空高く吹き上げられ、風に乗って遠くまで運ばれます。火口の近くでは厚く積もり、遠くにゆきわたって徐々に薄くなります。外出を控え車の運転には注意しましょう。



降灰後土石流

山の斜面に火山灰が厚く積ると、雨で流れて土石流となります。特に厚さ10cm以上積る地域では、何度も土石流が起こることがあります。人が走るより速く流れるので、降雨時は注意が必要です。

